

アウトドアガイドへのヒアリング等の結果について

1 調査概要

(1) 調査対象及び方法

対象	方法	人数(延べ)
北海道アウトドア資保持者	Web アンケート自由記載	112人
道内でアウトドアガイドを行っている者	ヒアリング	67人
計		179人

(2) 調査期間

令和3年 10 月～令和3年12月

2 主な意見(要約)

(1) アウトドア事業全体

○通年通してガイド業ができないところも問題。ニセコなどはスキーもできるが、道東はスキー場自体が少なく、冬の観光客自体が少ない。
○日本人ガイド及び若手人材の確保が困難。
○あらゆる顧客に合わせるよりも、より専門性ある能力を持つガイドが差別化が図れる。自然への負荷を小さくするために顧客は少ない方がよいことが多い。
○客単価を上げることと、ガイド自身が自らの価値を高めることが必要。
○ガイド業は、発展途上の職業であり、まだ生業として成り立っているとは思えない。
○より深く地域に根ざし、ターゲットを絞る常連客などの上質の顧客はお金を惜しまず支払う。
○ガイドに最も求められるのはコミュニケーション力だと思う。
○ホテルなどの支援は早々に行われるが、アウトドア事業者への支援は後手になっているように思う。
○雇用の補助や、新メニューの開発補助等があると新しいことにチャレンジしやすい。

(2) AT 対応ガイド及び AT の振興について

○語学力の向上が必要。言葉の壁への対策が最も重要。
○簡単なアクティビティであれば片言の英語力で対応できるが、AT ガイドは地域の環境やストーリーを語れる英語力が必要。
○AT 顧客が何を求めているのか、ガイドも知る必要があるし、そのような場が必要。

○欧米人対応に慣れていないため、壁や恐怖心を感じる(特に英語力)。英語が話せる人とアウトドアガイドが共同で案内する仕組みや、AT 対応可能な旅行会社との協業支援などがあるとよい。
○ガイドとしての技術・知識・経験は有している前提で、危機管理能力、言語能力、伝達力・交渉力及び表現力が必要。
○AT に対応したガイド制度の創設により、現在のアウトドア資格の価値が低下する恐れがあるのではないか。
○AT に興味はあるが、関わり方が不透明。ATWS のツアーも知らないうちに決まっていた。広く募集したようには見えなかった。北海道には有能なガイドがいるのに、把握されていないのではないか。
○知識や技術は当然ながら、年数ではない経験が必要。顧客だけでなく、地域の人々とのコミュニケーション能力も必要。
○ベテランガイドのガイディングを参考にしたい。特に AT のスルーガイド研修には興味がある。日本人ではなく、外国人のガイドから学びたい。
○ガイドや関係者に世界基準の AT をリアルに感じられる機会の提供(体験会や海外視察等)を希望。

(3) 北海道アウトドア資格について

○資格を保持していることで旅行会社との契約が円滑に進む。
○自分の技術を示す唯一の公的な資格である。
○公的な資格を取得することで認知度が高まる。
○目的としていた別の資格を取得したので、道のアウトドア資格は更新しなかった。道の資格はレベルが高いとは感じない。
○顧客への認知度向上など、資格自体の価値を高めていただきたい。
○アウトドア資格制度の知名度を上げていただきたい。
○資格保持者を優先的に紹介するなど、メリットを高めてほしい。
○更新時講習の内容が毎回同じである。事例共有を行うなど、質を高める内容にしていきたい。
○AT 資格を新たに作る前に、現在の北海道アウトドア資格を保持していなくてもガイドができる状況を是正すべき。
○ガイドはもちろん試験監督も次世代の人材が育っていない。若い人材を入れないと近い将来制度が成り立たなくなる。
○どうみん割の対象が、北海道アウトドア資格保持者のみ対象だったのは画期的だった